

開園 20 周年を記念してシンポジウムを開催いたします。当時を知る職員を中心に、よこはま動物園の設計に携わった職員から動物園のハード面の話、そして飼育担当者から動物たちの歴史を振り返る話を当時の裏話なども交えお話ししていきます。ぜひご参加ください！

前編 2020 年 2 月 22 日（土）12：30～受付 プログラム

13:10～ 開園までの道のり～よこはま動物園ズーラシアはどんな動物園？～

景山 敦樹 かげやま・あつき

私は、造園職の担当者として 1993 年度から 1998 年度の 6 年間、よこはま動物園の一次開園まで動物園建設に携わりました。

よこはま動物園では、動物の生息環境を再現するために、展示場やその周辺の園地には、様々な仕掛けが施されています。また、動物の世界で過ごすという非日常的な体験が楽しめるような工夫や造園職としてのこだわりが随所にちりばめられています。そんな仕掛けや工夫・こだわりを中心にご紹介します。



13:35～ オカピの歩みはズーラシアとともに

石和田 研二 いしわだ・けんじ

1997 年の秋、研修先のアメリカから 2 頭のオカピとともに帰国。日本に初めて来園したキアンガ（オス）とレイラ（メス）は、共に 1 歳数か月の若い個体でした。開園を迎え、人気動物となったオカピ。新しい動物園の誕生と、国内で初めて飼育された事等から、各種メディアに何度も取り上げられました。来園から約 3 年後の 2000 年 11 月 21 日、国内初の 2 世も誕生しました。

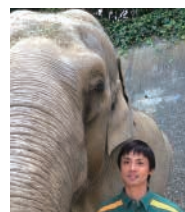


14:10～ ソウたちの 20 年

古田 洋 ふるた・ひろし

1999 年 3 月、インドのアッサム州立動物園から、インドゾウ 3 頭がやって来ました。ゾウたちの飼育方法や健康管理のトレーニングを教わるために、アッサムからゾウ使いに来日してもらいました。

この 20 年間、エレファントライブヤスプラッシュ、お絵描きなどのトレーニングを通してゾウたちは様々な体験をしました。数年前からは繁殖を目的とした他の動物園への移動という大きな変化も起きています。



後編 2020 年 2 月 29 日（土）12：30～受付 プログラム

13:10～ テングザルたちの 10 年の歩み

川崎 立太 かわさき・りゅうた

一次開園に間に合うことはありませんでしたが、インドネシア政府との共同研究を取り組むこととなり、開園 10 年目にして 5 頭のテングザルを導入するに至りました。

わからないことだらけの希少動物を維持するのは、日々苦労させられます。そんな中でも 3 頭の子どもを得ることができました。どんな苦労があって、それをどう克服してきたのかを皆様と共有できるようなお話をしたいと思います。



13:35～ チンパンジーの 10 年の歩み ～開園 10 周年記念 チンパンジーの森公開！～

平賀 真紀 ひらが・まき

よこはま動物園が開園 10 周年を迎えた 2009 年 4 月に「チンパンジーの森」が公開となりました。公開に合わせ、チンパンジーサンクチュアリ宇土（現：京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ、以下 K5）からオス 2 頭、メス 5 頭、合計 7 頭を導入することが決まりました。

チンパンジーとの顔合わせもかねて研修に行くことになりました。初めは「知らないニンゲンが来た！」と警戒され、色々なイタズラもされました。

今回は、チンパンジーの森公開までの裏話を紹介します。



14:10～ スマトラトラ 20 年の歩み

石和田 研二 いしわだ・けんじ

2011 年 6 月にメスのデルが、オランダから、2012 年 3 月にはオスのガンターがアメリカから、それぞれ来園しました。しかし、簡単には繁殖せず、最初に繁殖が成功したのは 2014 年 8 月のことでした。このペアは相性が良かったのかこれまで 3 回の繁殖に成功しています。当園で生まれたトラは、野毛山動物園をはじめ、愛知・大阪・宮崎の動物園に移動しています。

今回は、ガンターとデルが来園してから 2019 年末頃までの出来事を中心にご紹介したいと思います。

